

## 1, スポーツ組織団体検討会議

本会議体は、以下の目的で設置されている

### (1) 目的

人口減少に伴い、スポーツ関連事業の担い手やスポーツを楽しむ市民（子ども含む）が急激に減少している。またこの 30 年の社会環境の大きな変化の中で、現状に合った、より効率的で効果的な体育行政・施策の再設計や、スポーツ団体の役割の見直しと再組織化が急務となってきた。本会議体では名寄市内のスポーツ関連組織とともに、10 年先を見据えて、持続的・効率的・効果的なスポーツ組織の在り方について検討する。

### (2) 役割

各スポーツ組織の現状を情報共有して今後のスポーツ組織の運営方法について検討し、市への提言や、実働・運営に向けて具体的なステップを決定していく。

※本会議の設置者：N スポーツコミッション

### (3) 主な検討事項

- ・各スポーツ団体の現状共有（事業内容、組織概要・状況、経営状況、課題、見直しなど）
- ・新組織のビジョン形成と事業設計、法人化に向けた検討と実働

### (4) 想定している流れ・スケジュール

- ①現状の確認（課題感などを含めて）
- ②ビジョン形成（個人のビジョン、スポーツを通じた街のビジョン。共有・対話・創発）
- ③ビジョンと照らし合わせながら、現状分析と各ジャンルの事業の方向性の決定
- ④ビジョン、現状、事業の方向性を掛け合わせた、中長期・短期の事業見直し
- ⑤具体的な統合にむけたステップ形成とスケジュール形成※

※⑤については統合ありきではないという意見が名寄体育協会からあったため、現時点では⑤までの動きは想定していない。

## 2, スポーツ組織団体検討会議 メンバーと出欠状況

代表者会議				①			
	所属	役職	氏名	2022/7/15			
1	Nスポーツコミッション	会長	加藤剛士	○			
2	風連町スポーツ協会	会長	日根野正敏	○			
3	名寄市体育協会	会長	吉田 肇	○			
4	名寄市体育協会	副会長	国府 壮	○			
5	名寄市体育協会	専務理事	石川孝夫	○			
スポーツ団体組織統合検討会議				②	③	④	⑤
	所属	役職	氏名	2022/8/10	2022/10/11	2022/11/14	2022/12/13
1	風連町スポーツ協会	理事長	菊池慎二	×	○	○	○
2	風連町スポーツ協会	事務局長	明石 裕	×	○	○	○
3	風連町スポーツ協会	理事	筒井正敏	×	○	○	○
4	名寄市体育協会	理事	遠藤和之	○	○	○	○
5	名寄市体育協会	事務局長	安澤 豊	○	○	×	○
6	名寄市体育協会	総務課長	名和谷香代	○	×	×	×
7	名寄市議会		山田典之	○	○	○	×
8	名寄市議会		山崎真由美	○	○	○	○
9	名寄市	特別参与	阿部雅司	×	○	○	○
10	名寄市	総合政策部長	石橋毅	×	×	×	○
11	Nスポーツコミッション	副会長	遠藤貴広	×	○	○	○
12	Nスポーツコミッション	委員	荻野大助	×	○	○	○
13	N P O 法人ETIC	マネージャー事業本部	加勢雅善	○	○	○	○
14	渡邊靖雄公認会計士事務所	公認会計士	渡邊靖雄	×	×	×	×
事務局							
	所属	役職	氏名	2022/8/10	2022/10/11	2022/11/14	2022/12/13
1	名寄市	スポーツ会館推進課課長	松澤大介	○	○	○	○
2	Nスポーツコミッション	事務局次長	黒井理恵	○	○	○	○
3	データバンク	取締役	石塚大輔	○	×	×	×
4	データバンク	マーケティング戦略室長	長瀬貴紘	○	×	×	×

### 3, 討議内容頭末まとめ

会議資料（公開可能なもの）と議事録はNスポーツコミッションが運営する「なよろスポーツナビ」で公開し、SNSで共有している。

#### (1) 第1回目（代表者会議） 2022/7/15

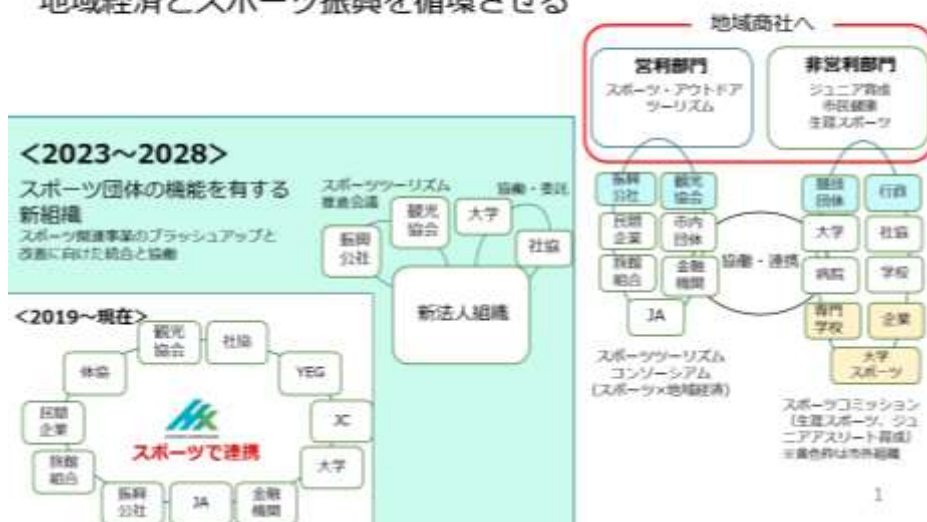
##### ①組織統合素案の説明

- 資料1（抜粋） ※本図は一部組織名などについて会議時より修正済

仮法人) 新組織体制と将来像案

#### <2028~> 地域商社を目指す

スポーツを通じて地域資源から新しい価値を創造し、  
地域経済とスポーツ振興を循環させる



##### ●討議内容（抜粋）

- ・統合後の職員の保障対応をしてほしい（吉田会長）
- ・Nスポーツコミッションが市民に理解されていないのでは（石川専務理事）
- ・統合のステップについては法的な壁があるのでは（石川専務理事）
- ・加盟団体への補助をこれまでと変わらずしてほしい（明石事務局長）
- ・収益事業が確定するまでの財政支援は（安澤事務局長）
- ・代表者会議の位置づけは（日根野会長）

##### ②今後の会議の進め方

##### ●資料2（抜粋）

- (1) 代表者会議 年1~2回（各団体の理事者に進捗状況の報告など）
- (2) 検討会議（2回目以降） 月1回（事業・経営計画・法人格・組織構成など）
- (3) 事務担当者会議 随時（名寄体育協会、風連スポーツ協会の会計・各事業の調整など）

## (2) 第2回目 2022/8/20

### ①本会議の主旨、今後の流れについて

冒頭の本会議の目的や役割について共有。

### ②新組織におけるビジョンの形成について

#### ●討議内容（抜粋）

- ・それぞれの団体がやってきたことをすりあわせてほしい
- ・それぞれが感じているスポーツ周りの課題について
  - >子どもの減少
  - >指導者、ボランティアが減少（地域格差の増大が生まれている）
  - >スポーツのムーブメント（スポーツの社会的な価値が高まり、屋外の活動やアウトドアツーリズム、フィットネスなどの盛り上がりがある。）
  - >国の施策（スポーツの支援が増大し、スポーツ庁のサポートが増えている）
  - >施設の老朽化 ・学校周り（部活動の地域移行）
  - >意識の二極化（運動に対しての意識の二極化）
  - >経済（物価高、円安、経費増）

## (3) 第3回目 2022/10/11

### ①新組織における活動方針について

#### ●今後の会議の進め方と役割分担について

- ・Nスポで会議進行・連絡調整を主体で行っていくが同じ立場で議論を進めていく
- ・風連町スポーツ協会事務局と名寄市体育協会事務局と名寄市との実務者会議を別途開催して、事業の整理などを行っていく。本検討会議は新組織となった場合に、どのような事業を進めていくべきか、市民にどのように還元できるかを考えていく役割としていきたい。

#### ●各団体の事業状況について共有

- ・名寄体育協会の事業内容
- ・風連スポーツ協会の事業内容
- ・Nスポーツコミッションの事業内容
- ・（参考）風連ポポの事業内容

### ②新組織における事業に関する意見交換

- ・風連・名寄で存在する同一競技の競技団体・協会は強制的な統合はしない。各団体が新組織に登録し直すステップ。
- ・部活動に関して。仕組み、先生の温度感、教育委員会の動き、どう市民が関わるか、人材確保等の課題について。人材バンクの仕組みが作れないか。
- ・少年団と指導者について。指導者間の交流がなく、子どもたちの取り合いが置き、チームスポーツが成り立たなくなっている。さまざまな課題をNスポがコーディネーターで関わり指導者

になりたい子どもが増えるような環境づくりが出来ないか。

- ・大学との関わり。全国大会クラスの学生もいる。現在の N スポと味の素とで連携しているスポーツ栄養学は関心の高い学生が多い。
- ・施設管理とソフト運営の相乗効果。札幌の事例では、施設管理団体とソフト事業実施団体が統合した。施設管理のコストを効率よく利用、相乗効果を生み出せるコンテンツを生み出すソフト事業を実施している。強化費を競技団体に出して札幌出身オリンピックを出すために全体でうごいている。施設管理の人材がソフトコンテンツ事業を行える様になるなど、人材面の効果も大きい。
- ・使っていない学校の施設利用も検討しては。
- ・名寄体育協会のスタンスは、組織としては前向きに話していくというのは決まったが、統合ありきではない。

#### (4) 第4回目 2022/11/14

##### ①新組織における実施すべき具体的な事業について

###### ●前回の会議から、各団体の事業内容の整理（別添）

- ・ジャンル毎に整理したので、統合・協力できる事業はしていく

###### ●そのほかの意見

- ・指導者育成と部活動の統合にむけて。教育委員会の動きの確認。地域指導者の感覚や、指導時の保障や責任についてなど話すべき事があることの確認。
- ・札幌では競技団体に予算を割り振って高校生までの育成を行いはじめ、結果が出始めている。現在のジュニアスポーツアカデミーのようにいろんな競技やトレーニングを行える様にして、競技団体とコミュニケーションを取りながらやっていけたらいいと思う。ただし、指導者はボランティアでは難しい。また、講習を受けないと指導者になれない等の制度は必要。
- ・将来的には、中体連の大会がなくなるなどの方向も出てくるだろう。
- ・市民健康増進の視点から、ゆるスポーツなどの展開や、冬に歩くスキーが街中でできる場所などがあるといい。創ってほしい。働き盛りの中間層に向けて、なにか仕掛ける施策はどうか。
- ・歩いたり測定するとポイントがたまり、商店街などで買い物できるメリットがあるといい。そういうアプリや地域通貨との連携ができないか。地域通貨は現在商工会議所でも検討している。

##### ②新組織における財源確保に関する意見交換

###### ●資料から（抜粋）

スポーツコミッションの収益事業を以下6つに分類できる。

- 1) 施設管理・指定管理
- 2) 施設使用料（課題：小さい施設は減免で利用することが多く 民間利用が多く 赤字体質）
- 3) スポーツ教室（会費として費用を回収）
- 4) 自治体や競技団体からの事業受託（大会など事務局運営、特に健康福祉まわりは手薄）

- 5) 道や国からの補助事業・施設改修事業（追加メリット：雇用も維持）
- 6) 観光業との連携（秋田県・鹿角市などは大会開催時の配宿、旅館組合と現地視察）

●討議内容

- ・Nスポでは、スキー場関連、健康レシピ開発（味の素とと事業）による経済活性などがあるが、直接収入源となっているわけではない。
- ・スポーツ施設管理費を収益のメインとしては想定している。風連：年間 4000 万円の施設管理（人件費を除いて）、名寄：1 億 1000 万円（フォレスト、ジャンプ台含む）で全体では 1 億 5000 万円。札幌のように、施設管理費だけではなく、そこにトレーナーや指導者を置いたりすることで施設が生きる仕掛けが必要。
- ・収益とは、対象者にサービスを提供してお金を受け取ると言うこと。内需（市内）か外需なのか、ということを考える必要もある。雪のコンテンツはインバウンド視点でいくと収益化がイメージできる。また、「子どもの居場所づくり」という方向での国からの予算獲得なども検討すべき。

(5) 第 5 回目 2022/12/19

①新組織における財源確保に関する具体的な事業について

●前回の会議から収益事業の方向性の整理（別添）

施設管理業務 1 億 2,000 万円

施設利用料 570 万円

運営補助金 240 万円

ジュニア育成補助金 175 万円

>1 億 3,000 万円＋ツーリズム事業収入／スポーツイベント・スポーツ関連事業受託

>新法人では旅行業資格取得も検討する

- ・施設利用の収入をメインに
- ・スポーツツーリズムのアイデアがいろいろ出てきた
- ・大会運営のサポート人材をコーディネートし、運営費を収入とするという方法

②新組織における組織形態・人事に関する意見交換

- ・現状の確認
- ・スポーツ協会の縦系列にない団体（一輪車やダンスなど）をどうするか
- ・市民から議論が見えない・発言したいという人もいる。シンポジウムを開催しては。
- ・加盟団体への了承を得る必要がある（名寄体協）
- ・学校への説明なども必要では。
- ・理事への説明などが必要。

以上